

美作の狛犬（4）

はじめに

これまでの調査により美作地域には、大阪・愛知・島根・広島等から入ってきた狛犬が所在していることがわかった^{註1}。今回は、美作地域の神社 388 社中 204 対を調査し、美作地域にも早くから入ってきた大阪の狛犬や尾道型狛犬について触れる。また、津山城の石垣に使われている凝灰岩と同質の石造物について前回に引き続き中間報告をする。

美作国の大坂の狛犬

美作地域での大阪の狛犬は、出雲型・岡崎型・尾道型等よりも古くから存在する。中でも、江戸時代後半の明和元（1764）年に奉納された一宮の中山神社神門前の狛犬が最古のものである（写真1）。台座には、石工銘「泉州住石工小鯛市兵衛」が刻まれていて、大阪の石工が造った狛犬であることがわかる。

また、大阪の狛犬は様々な姿形をしているため、分類することは容易ではない。さらに、大阪の石工の名前が銘記されていても型式は他のものを踏襲しているものもあり、一概にタイプを断定することは難しい^{註2}（写真4～6）。しかし、上を向いた横広の鼻、垂れ耳、団扇状の尾っぽ（写真2）、前足は短く太く、たてがみがらほつのように回転している。姿勢は座形（蹲踞の姿勢）が基本で、顔は縦長や丸顔で彫が浅く、目の中に彫り込みがあり、鬼面・人面に近い印象である。また、本来の「獅子・狛犬」の形式を踏襲しているため、吽形の頭部には角があるものがある^{註3}（写真3）。



写真1 中山神社
(津山市一宮)
明和元年 (1764)

田渕千香子
花崗岩でつくられたものが多いなどの特徴を挙げることができる。

美作地域で大阪の狛犬が奉納された時代

美作地域の神社 388 社中 204 対を調査した結果、大阪の狛犬の中で年代が分かるものは、38 対確認できた。この内、一番古い中山神社の明和元（1763）年から羽出神社の慶應2（1866）年までのおよそ 100 年間に 25 件の大阪の狛犬が奉納されている。これらの狛犬を年代順にみていくと、天保期頃から件数が急に増していることがわかる。これは、狛犬奉納の全国的なブームの時期と重なり、他の形式や御神燈などの神社関係の石造物などの奉納にも共通する傾向であり、地域同士で競って奉納が行われたことが考えられる。

分布図1を見ると、美作地域での大阪の狛犬の展開が分かる。江戸時代には、真庭市・新庄村を除く地域



写真2 金刀比羅神社
(津山市中原)
天保6年 (1835)



写真3 美作総社宮
(津山市総社)
嘉永6年 (1854)



写真4 吉野神社
(奈義町中島西)
弘化4年(1847)



写真5 貞永寺八幡神社
(鏡野町貞永寺)
文化6年(1809)



写真6 加茂神社
(津山市加茂)
文政12年(1829)

様々な形態の大坂の狛犬

では大阪の狛犬が主流である。

また、明治以降になってからも、出雲型・尾道型・岡崎型などが入ってくる中で、大阪の狛犬を稀に確認することができる。明治時代には、津山市近長の八坂神社、鏡野町久田の久田神社・富の布勢神社で確認できる。さらに、昭和時代に入ってからも津山市鶴坂の鶴坂神社・真庭市勝山の高田神社で確認できる。津山市近長の八坂神社のものは、「大阪 石光」の銘が台座に入っていて、大阪から運ばれてきたことがわかる。真庭市勝山の高田神社神門前の狛犬は、同社の境内にある嘉永元(1848)年のものと似ているため、これに倣って造られたものではないかと推測できる。

また、真庭地域では、江戸時代には中和神社(真庭市中和)・加茂神社(真庭市別所)などを除き、ほぼ出雲型狛犬が占めている。これは美作地域の中でも真庭・新庄地域では、交流のある松江と流通が盛んであったと考えられ、大阪との流通はわずかであったと考えられる^{註4}。

尾道型狛犬

美作地域に所在する尾道型狛犬は、少数ではあるが存在する。尾道型狛犬の特徴は、長く伸びたするどい犬歯をもち、尻尾は刺々しく逆立ち、耳が横に大きく突出するもので、座形・構形・玉乗り形の3タイプがある。美作地域で座形に属するものは、津山市上之町の大隅神社の狛犬である。構形は津山市一宮の中山神社、津山市宮尾の八幡神社、真庭市神水田の郡神社(写真7)などに所在している。また、広島県や岡山県南に多く見られる玉乗り型狛犬は、真庭市高屋の天津神社(写真8)、美咲町原田の榎葉神社(写真9)などで確認できた。

また、旧久米地域の美咲町・建部近辺に来ると、大阪の狛犬、出雲型と尾道型を合わせたような狛犬が見受けられるようになる。この狛犬は、一見「大阪の狛犬」の様だが、「構え型」や「玉乗り型」をしている

国土地理院承認 平14緑旗 第149号



分布図1



写真7 郡神社
(真庭市上水田)
嘉永5年(1852)



写真8 天津神社
(真庭市高屋)
昭和15年(1940)

尾道型狛犬



写真9 椿葉神社
(美咲町原田)
安政7年(1860)



写真10 郷社八幡神社
(美咲町西拝和)
安政4年(1858)

吉松狛犬

ものもある。「構え型」のものは、尾っぽが一部体につき透かしが入っていて尾道型によく見られる傾向である。美作地域では、このような狛犬が数件確認できる。これらの中でも、椿葉神社（美咲町打穴西）・八幡神社（美咲町西拝和）の狛犬には石工銘があり、「小豆島 石工 吉松」と書かれてある（写真9・10）。他にも、石工銘は記されていないがこれらと類似した形態の狛犬が確認できる（写真11）（写真12）。この「吉松狛犬」の分布に関しては面白い見解がでている。「吉松狛犬」は、石工の出身地である小豆島には所在せず、旧御津郡～久米地域へ分布していて、これは小豆島の石工が市場を求めて県北地域へ進出してきた結果ではないかとしている^{註5}。また、小豆島は旧津山藩の領地であったため、小豆島の石工が美作地域へ進出してきたことと関わりがあるのかもしれないが、今後の研究で明らかにできたら幸いである。

美作地域に所在する凝灰岩の石造物



写真11 志呂神社
(岡山市建部町神目)
万延元年(1860)



写真12 徳尾神社
(眞庭市川上)
文久元年(1861)

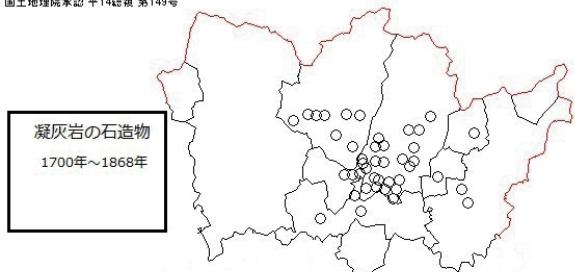
吉松風狛犬

美作地域の石造物の中で、津山城の石垣に使われた凝灰岩と同質の石造物について調査している。現在美作地域の凝灰岩で造られた石造物は、135件確認できている。中でも年代が分かっているものは、108件ある。分布図2をみると、江戸時代～昭和時代まで共通することは、美作地域の中心地であった箇所に集中しているということ、また眞庭市・新庄村地域には全く所在していないという点である。さらに、他の石造物と同様に天保期～嘉永期にかけて急激に奉納数が増していることである。また、確認ができるものの中では、若宮神社（津山市茅部）の石柱が元禄13（1700）年と一番古いものである（写真8）。美作地域の凝灰岩の中で、天保以前の古いものは少なく江戸時代のものが44件ある中で6件である。これは、老朽化による建て替えがすすんだ結果であると考えられる。例えば高倉神社（津山市高倉）の鳥居は、明治20（1887）年に享保9（1724）年の鳥居を建て替えている。以前のものが凝灰岩であったかはわからないが、凝灰岩の耐久年数がきたため建て替えられた可能性が考えられる。また、天保期は全国的な奉納ブームが起こっている為、

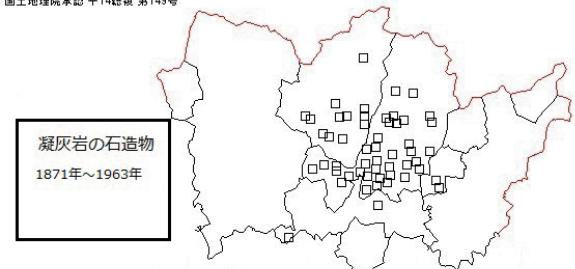


写真13 若宮神社
(津山市茅部)
元禄13年(1700)

国土地理院承認 平14地図 第149号



国土地理院承認 平14地図 第149号



分布図2

これに乗じて建て替えが進んだとも考えられる。今後の調査の中で、明らかにしていきたい。

まとめ

以上、美作地域に所在する大阪の狛犬、尾道型狛犬についての調査結果をまとめた。大阪の狛犬は、ほとんどが江戸時代のものであることが分かり、明治以降になってからも数件程が確認できるが、出雲型・岡崎型などがその過半数を占めるようになることが分かった。また、真庭市・新庄村地域では、江戸時代の大坂の狛犬は4件であり、他は殆どが出雲型狛犬である。美作地域の中でも流通の経路が違うことがわかった。

また、津山城と同質の凝灰岩の石造物調査では、津山藩の中心地に分布が集中していることがわかった。江戸時代では天保期～嘉永期までのものが殆どで、それ以前のものはごくわずかであった。これは、建て替えなどによる結果と考えられるが、まだ調査は全て終

わっておらず、今後の調査で天保以前のものが発見されれば、また違った展開が見えてくるかもしれない。

小稿を記すにあたって、倉敷埋蔵文化財センターの藤原好二氏には御教示いただいた。また、現地調査では様々な人にお世話になった。末筆ながら記して御礼申し上げます。

註1 『年報 第17号』津山弥生の里文化財センター 田渕千香子 2010年

註2 註1

註3 『日本全国 獅子・狛犬ものがたり』 上杉千郷 2008年 戒光祥

註4 『年報 第19号』津山弥生の里文化財センター 田渕千香子 2012年

註5 『倉敷の歴史 倉敷市総務局総務部総務課第20号』「狛犬石工銘に関する考察 その二 徳松と吉松」藤原好二 2010年

番号	神社名	所在地	設置位置	石造物種類	姿勢	年代	石工銘	材質	型	保存状態
1	中山神社	津山市一宮	参道	狛犬	座	明和元年九月 (1764)	泉州住石工 小鯛市兵衛	花崗岩	大阪の狛犬	良い
2	金刀比羅神社	津山市中原	参道	狛犬	座	天保六年四月吉日 (1835)	泉州里山源兵衛 柏信安	花崗岩	大阪の狛犬	良い
3	美作総社宮	津山市総社	参道	狛犬	座	嘉永六年癸巳正月 (1853)		凝灰岩	大阪の狛犬	良い
4	吉野神社	奈義町中島西	拝殿前	狛犬	座	弘化4年未4月吉日 (1847)	不明	花崗岩	大阪の狛犬	良い
5	八幡神社	鏡野町貞永寺	拝殿前	狛犬	座	文化六年己巳九月 (1809)	不明	砂岩	大阪の狛犬	良い
6	加茂神社	津山市公卿	参道	狛犬	座	文政十二年巳九月 (1829)	不明	花崗岩	大阪の狛犬	良い
7	郡神社	真庭市上水田	拝殿前	狛犬	構	嘉永5壬子年三月吉日(1852)	尾道石工 山根屋源四郎	花崗岩	尾道型	良い
8	天津神社	真庭市高尾	階段上	狛犬	玉乗り	皇紀2600(1940)年	不明	花崗岩	尾道型	良い
9	榎葉神社	美咲町打穴西	参道	狛犬	玉乗り	安政7年(1860)	備中倉敷 石工徳森 讃州小豆島 石工吉森	砂岩	尾道型	良い
10	郷社八幡神社	美咲町大坪和西	入り口	狛犬	座	安政4(1858)年	小豆島 石工 吉松	砂岩	尾道型	良い
11	志呂神社	建部町神目	拝殿前	狛犬	構	万延元(1860)年		砂岩	尾道型	かなり心配
12	徳尾神社	美咲町西川上	拝殿前	狛犬	構	文久元(1861)年		花崗岩	尾道型	良い
13	若宮神社	津山市茅町	弊社前	石柱		元禄13(1700)年 庚辰		凝灰岩		かなり心配

本稿掲載の石造物データ